

インターネット社会でわたしたちは

～ 人権侵害の現実をとらえ、解決への道すじをさぐろう ～

社会は、情報通信技術の発達がめざましく、人びとの暮らしをどんどん便利で豊かなものにしていきます。この技術の活用なしには、社会基盤さえ成り立たない現実の中で、わたしたちは生活しています。社会システムはインターネットでつながり、瞬時に必要な情報を得ることができたり、システムを利用できたりするなど、社会生活にはなくてはならないものとなっています。



インターネットを主とする情報通信技術が、わたしたちのくらしや仕事を便利で豊かなものにしていく側面が広がればいいのですが、人権侵害を引き起こす道具として用いられている側面があることをとらえなければなりません。プライバシーの侵害やネット上でのいじめ、誹謗中傷など、悪意のある情報があふれている現実を見過ごすことはできません。デマや偏見、

差別情報などが大量に発信され、瞬く間に拡散しています。ネットの持つ匿名性が、人権侵害の行為を一層助長していると考えられます。ネット上の人権侵害を規制する法の整備も十分とは言えない状況です。ネット上での差別の放置は、現実社会での差別をエスカレートさせるとともに、無規制のまま広がり続けると、これまで積み重ねてきた人権に関する基準を後退させてしまいかねません。人びとの人権意識の形成にも影響を与えてしまいます。この便利な技術をどう使うかは、「人」しだいなのです。



インターネット上の掲示板や SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの利用に当たっては、常に書込みの相手や読み手に配慮することが大切です。インターネットの利用によって人権を侵害しないためには、普段の生活と同じように、他者に対する配慮が必要です。また、手に入れる情報をすべてうのみにするのではなく、その真偽を見極めることも大切です。人権尊重の視点で、正しい情報を発信していくことも大切です。行政組織などでは、モニタリングというネット上の人権侵害の実態把握や悪質なものへの削除要請が取り組まれています。

わたしたちは、自分のくらしの範囲で人権にかかわる学習や研修などを重ね、人権意識を高めていくとともに、ルールやマナー・モラルを守って、人権侵害の加害者にも被害者にもならない努力が求められています。日々の取り組みにつないで行きましょう。